

令和5年度 保育所自己評価（総括）

2024年3月30日

さくらの郷みらい保育園

1. 組織体制・職員体制

年度開始時に保育士を5名補充し、支援体制も含めて職員体制を整備した。

年度途中で副園長職が病気退職したため組織体制を再整備し、新たな組織体制で保育運営を行った。

令和6年度に向けて、年間通して世代交代を見据えた人材確保を行った。

2. 保育内容・実施

過去3年間、新型コロナウイルス感染症対応も含めた内容・運営で行事を行ってきた中で、『子どもの息遣いが聞こえるほどの近いところ』で子どもの成長を感じてほしいという思いもあり、今年度も行事は園内で実施する計画であったが、年度当初の保護者からの要望を職員会議で十分に検討して、運動会の実施について場所・日程の変更をした。行事後の保護者アンケートではおおむね好評で、建設的な改善点などもいただき、次年度へ反映することとした。

保育参加は今年度も期日を限定せず、保護者の都合のよい日に申し込んでいただく形式にした。年間で複数回参加されたご家庭もあり、普段の保育の様子を確認していただける機会となった。

日常の保育運営は、毎月のクラス会議の中で、月ごとの振り返りと次月の目標の確認や、個別の子どもの様子を共有することで、保育者間・園全体の共通認識に繋がった。

3. 研修・研究

新型コロナウイルスの国の取り扱いが、第5類感染症に変更になったことで、外部研修に参加する機会を増やした。

国の処遇改善等加算の研修要件が明確に示されたため、未受講の職員や新入職員を優先してキャリアアップ研修の受講を進めた。

6月の横浜保育フォーラムに、保育実践の発表を行い、動画での配信で周知することができた。

また、横浜市社会福祉協議会の保育研究会に参加し、年間通して一つのテーマについて、他園の保育士・職員たちとも研究に取り組んだ。期間中、保育園でも研究協力を行ったり、研究内容の共有を行った。

4. 福祉サービス第三者評価

今年度は、福祉サービス第三者評価を受審した。

全職員が評価項目の回答に取り組み、外部の実地調査も含め、2024年3月に公表された。

この受審への取り組みを通して、改めて保育の振り返りや、強み・改善点を明確に認識することができた。

5. 次年度へ向けて

- それぞれの職員の強みを生かせる組織体制とする
- 若手の職員や男性職員の割合を増やし、保育内容に更なる多様性を加える
- 医療的ケア児サポート保育園として、医療的ケア児の受入れ体制を整えるとともに、専門性を高めるために研鑽に努める
- 『コドモン』機能を拡大して、保護者との連絡をよりスムーズに行う等、更に保護者との双方向のコミュニケーションを深める
- 他園や学校等との交流を更に深めて、子どもたちの経験の幅を広げる
- 園庭開放や育児相談等、地域の子育て支援にも積極的に取り組む